

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : http://www.elv.or.jp/

■特別インタビュー■

消費者団体の方に聞く(前編)

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長 鬼沢 良子 様



[写真右から: 鬼沢良子様、広報部会長 永田則男、広報部会委員 木村香奈子]

消費者団体の代表として、産構審・中環審合同会議に委員として参加されるなど、さまざまな方面で活躍されている『NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット』事務局長、鬼沢良子様にインタビューを行い、他団体の方からみた自動車リサイクル業界などについて伺いました。(※以下、インタビュー本文は敬称略とさせていただきます)

『NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット』とは

— このたびはお忙しい中、インタビューをお引き受けいただき、ありがとうございます。まずは、鬼沢さんが事務局長を務めていらっしゃる『持続可能な社会をつくる元気ネット』についてお伺いしたいと思います。

鬼沢 はい。まず、ごみ問題で最終処分場がもうなくなるってということが社会の大きな課題になった20年くらい前、それぞれにリサイクルに取り組んでいる行政や専門家、市民がつながるネットワークを作るってことを目的にできたのが『元気なごみ仲間の会』という市民団体だったんですよ。

— それが前身になるわけですか？

鬼沢 そうなんです。その後NPO法人になりました。2001年からは『市民が創る環境のまち“元気大賞”』という事業を始めました。全国各地でいろんな環境活動をしている団体に応募いただいて、それを市民の立場で応援する表彰制度なんですけれども。

目次

巻頭言 1
トピックス	
特別インタビュー(前編) 1-3
産構審・中環審合同会議 3
監査での事例報告 4
ブロック会議 4
大阪府組合活動 4
会員の取り組み紹介 5
鉄スクラップ最新情報 6
行事予定・お知らせ 7
編集後記 7

巻頭言

先月、社員の結婚式に出席しました。新婦側でしたので新婦が入場する度に感動の余り目頭が熱くなりました。

後日、披露宴の席次表から新郎の先輩のお父様が取引銀行の支店長と分かりました。その支店長であるお父様より我社に対し、良い評価をいただいたと社員が嬉しそうに話をしてくれました。

人は、思わぬところで繋がっています。日頃から誰に対しても変わらぬ態度「礼儀礼節」と、笑顔で穏やかに相手の立場に立った言葉遣いで接する「和顔愛語」が大切であると学びました。

(広報部会 木村 香奈子)

鬼沢 最初は各地のリサイクルの活動が主でしたが、年数を経るごとにだんだん変わっていきまして、コミュニティビジネスや地域の特性を活かしたまちづくりの活動に発展をしていったところがあります。

——今はもう全国的にいろんな形で活動されている感じなんですか？

鬼沢 私たちが全国的にというよりも、全国で活動されている方たちとのつながりがあるので、たとえば、他のいろんな事業でも、「この地域に行けばこの人」という人材がいるわけじゃないですか。だから、「今、こういう事業をやっていて、今度そちらの地域でもやりたいんだけど、一緒にどうですか」というお声掛けをして、今ではまったく違う活動も、そのように展開しております。

——なるほど。

鬼沢 元気大賞は、表彰するだけじゃなくて、翌年私たちが一般参加も募ってその地域にエコツアーで訪れるんですよ。そこがね、私すごくよかったと思うんですよ。その地域の人と交流することで、活動していくうえでの苦勞だったり、成功した秘訣だったり、地域の方の考えだったりっていうのを共有できて、お互いが学び合えるいい機会だったなあと思うんですね。

海外からみた日本の自動車リサイクル

鬼沢 そんなふうにしていろいろ活動を続けてきたんですけど、ここ最近『マルチステークホルダー会議』というのを開催しております、今年2年目なんですね。今年は自動車リサイクル制度の見直しの年なので、この会議で自動車リサイクルも取り上げております。

——実際どうですか？日本の自動車リサイクルというものにどんな感想をお持ちですか？

鬼沢 実は昨年ヨーロッパに行ってきて、自動車リサイクルに関して、いろんなところを取材してきましたんですが、一番思ったのは、日本の自動車リサイクル法って素晴らしい法律なんだなって。他と比べてみてね。ドイツが進んでるって割と思うじゃないですか（笑）。でも、ドイツは年間140万台（廃車の44%）の行方不明車があるとかね。それと比べたら日本はすごいですよ。↑

——そうですね。我々やっている方としては正直厳しいなというのはありますが（笑）。

鬼沢 でも、その厳しさがあるからこそ、不法投棄も行方不明になっている車も少ないってことだと思います。

預託しているのが、日本とオランダで、オランダに取材した時に「いや、うまくいっているのは日本と我々だけだよ」って向こうの方がおっしゃってて（笑）。「おめでとう」と言われました、ふふふ。

産構審・中環審合同会議に委員として参加して

——ははは、そうですね（笑）。鬼沢さんは今産構審に見直しで参加されていますけども、参加した感想というのは何かありますか？

鬼沢 今までもずっと年に1回は必ず報告として毎年8月頃に開かれてたんですが、その報告を聞いていると、割と自動車はうまくいってると。で、数値も目標値をかなり上回ってちゃんとできてるっていう報告を受けてまして。

でも、今回ヨーロッパの視察をして思ったのは、うまくいってるからこそ、もっと「将来どうするべきか」ということをこのへんで明確にしていく必要があるんじゃないかなと。

きっとこれまでは関係者の皆さんがご苦勞されてうまくしてきたんだと思いますけれども、将来を見据えることはすごく大切なんじゃないかなと思います。

それと、ユーザーの側からすると、車を購入して廃車するまでの間って結構長いですよ？

——確かに、そうですね。

鬼沢 その間っていうのは、あまり自動車リサイクルに関心を持たないできてしまう。けれども、実際に廃車するときにはすごく大切な、そのためのリサイクル料金ですから。必ず毎年かなりの数の廃車が出てるわけだし、必ずどこかで皆さん関係するわけだから、それをもう少しちゃんと意識できるようなことが大切だと思うんですよ。産構審の内容を聞かれていますとお分かりだと思うけど、ユーザーの関心が少ないっていうか、実際すごくうまく運んでいるけれども、そのことすら伝わってないですよ。

ユーザーからの認知

—— おっしゃるとおりですね。

鬼沢 はい。その業界の方たちだけじゃなくて、やはり車に乗ってるユーザーもそういうことを本来知る必要があるんじゃないかなと思います。

—— 告知があまり上手にできてないということなんですか？

鬼沢 それと、直接関われないからですよ。同じリサイクルでも、容器包装だったら生活をして毎日自分の手元からごみとして出していくものですよ。でも、車は毎日乗ってても手放す時じゃないと、そこに関係しないというか……、故障して初めてリサイクルやリユース部品のことを考えるきっかけになります。

—— 会社によっては、毎年お客様を夏祭りっていう形で実際にお呼びしてヤードで車の解体ショーを見せたり、リサイクルの啓蒙活動という動きは、ポツポツ出始めてきたかなあというところなんですけどね。

鬼沢 それは非常に大切なことですよ。↑

やはりまず、周りにいる地域の人が、その事業者さんがどういうことをしてるのに関心を持つことが大切で、関心を持って見たり聞いたりすれば、その方たちから口コミでさらに広がっていくこともありますし。それは、大々的にチラシを作っで一斉にまいたりしても、伝わるものではないですよ。

—— そのとおりですね。

鬼沢 関心のない人にどうやって関心を持っていただくか。ってそれは私たちNPOも同じなんですけれども。やはりね、口コミで広まることって多いんですよ。ですから、いろんな活動してるNPOや消費者団体に「見学に来ませんか」って声を掛けるだけでもね、違いますよ。実際に見学して得た新しい情報って、みんな言いたいんですよ（笑）。いろんなところで言うんです（笑）。それは大きいですよ。見て感激すれば心におちるんですよ。インターネットで同じ情報を見ても「ふーん」と思うだけで、そこから次にはなかなか発信しないのが現実かなと思います。

（次号、後編に続く）

産構審・中環審 第39回 合同会議が開催

平成27年4月17日、産構審・中環審 第39回 合同会議が開催されました。

今回の議題は、「自動車リサイクル制度の安定的かつ効率的な運用についての論点整理」です。

1. 3Rの進展に向けたユーザー理解の促進
2. 引取業のあり方について
 - 引取業者における引取の実態を把握するとともに「使用済自動車判別ガイドライン」を踏まえ、ユーザーに対してどのような情報提供を行うべきか整理が必要。
3. 不法投棄・不適正処理への対応の強化
4. 使用済自動車等の確実かつ適正な処理の推進
 - 災害等が発生した際に迅速に対応できるようセーフティネット機能を強化していくべき。
5. 自動車リサイクル全体の社会的コストの低減
 - JARCの業務運営が安定化してきたことを踏まえ、運営で見直す点はないか検討すべき。
 - 特預金の使途については、ユーザーから預託された公益性の高い資金であることを踏まえ、原則として、指定法人業務への出えん、ユーザーへの還元を前提にした上で使途の拡大の是非を含め、様々な選択肢を検討すべき。

以上の内容で意見交換されました。今回の見直しは、ユーザー理解・認知・還元などユーザーを意識した話し合いでした。議事録以外の参考資料でも大変興味あるデータがありますので是非ご覧ください。

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/sangyougijutsu/haiki_recycle/car_wg/039_haifu.html

次回は、5月18日、議題は「今後の自動車リサイクル制度の在るべき姿」です。

エアバッグ類車上作動処理監査での事例報告

このほど自動車再資源化協力機構(以下自再協)より、全国303社に行われたエアバッグ類車上作動処理監査(2014年度)での事例報告がありました。

第1位	業務手順(例:作業前に報告をしてしまった)	21%
第2位	未処理(例:プリテンショナーの未処理)	11%
第3位	全体カバー	8%
〃	実績記録(例:管理台帳をつけていなかった)	8%
第5位	換気・マスク	5%

上の表でもわかるように、一番多く指摘されたのは「業務手順の不徹底」でした。

次に指摘が多かったのは、「未処理」の部分です。特にプリテンショナーの未処理がほとんどで、サイドエアバッグの未処理を含めると未作動処理部位の中で96%を占めていました。この未処理車両を分析しますと、JAMA方式一括作動ツールで展開できる車両の割合は93%ありました。しかし、一括ツールの利用は4%しかなく、96%が個別作動処理で作業されていました。ここでJAMA方式一括作動ツールを使用してエアバッグ処理をしていれば、89%は発生しなかったこととなります。

次に多かったのは、「全体カバーの不使用」と「実績記録の不備」でした。また、「換気不足」や「マスク非着用」も多かったようです。

自再協では、「業務手順」と「未処理」と「実績記録」に関しては、それぞれ単発的にミスが発生するものではなく、業務手順を正確に行っていれば未処理の発生や実績記録の漏れも予防できるとし、引き続き本年度もエアバッグ類適正処理にご協力願いたいとのことでした。

各地でブロック会議を開催

各ブロック会議開催日程	
4月10日(金)	近畿ブロック会議
4月11日(土)	中国・四国ブロック会議
4月14日(火)	中部・北陸ブロック会議
4月18日(土)	九州ブロック会議

主な議題:

平成26年度事業報告、平成27年度事業計画、各地域団体報告 ……など。

4月に各地でブロック会議が開催され、昨年度の報告や本年度の事業計画(案)の発表、各地域の近況報告などが行われました。

近畿ブロック会議では、近畿経済産業局よりリサイクル専門官の物井由紀子様、近畿地方環境事務所より廃棄物対策等調査官の柄本廣宣様をお招きし、九州ブロック会議では、九州経済産業局よりリサイクル推進課長の森永峰次様をお招きするなど、各地域で行政の方々とのコミュニケーションも積極的に図られました。

大阪組合、交通災害遺族会へ寄付



3月20日、大阪自動車リサイクル協同組合は、大阪交通災害遺族会に対して、会員らから募った寄付金10万円を贈呈しました。

同組合は昨年(平成26年)に結成10周年を迎えており、その記念事業として大阪交通災害遺族会への寄付を決断し、各会員・賛助会員25社の事務所に募金箱を設置して寄付金を募ったそうです。

同組合の埜村理事長によれば、「廃車で事故車も扱うことがあり、交通遺児に少しでもお役に立てればと感じていた。自動車リサイクル業界に携わる者として、社会貢献に少しでもできればと思う。今後も寄贈活動を継続していきたい」とのことでした。

自動車解体業で初！？ゆるキャラ『くるまくん』



自動車解体業で初(?)のゆるキャラ、『くるまくん』を制作した愛知県岡崎市にある有限会社川口商店の川口社長より、くるまくん誕生の経緯をお聞きました。

『くるまくん』は自社の認知度を高めることと、交通安全を呼びかけるために誕生しました。赤い鞆はシートベルトで作っており、「帰りはシートベルトをつけて帰るように」という意味が込められているそうです。「日々、事故車を見てるからこそ、我々が交通安全運動をしないと。出来るなら事故は無い方がいいよね」とおっしゃる川口社長。この一言から川口社長の温かい人柄を感じると共に、業界でのあるべき姿・使命を学びました。

ゆるキャラグランプリにも参加され、活躍している川口社長とくるまくん。今後の更なるご活躍を祈念しております。

【会員様からのご寄稿記事】 株式会社栃木パーツの代表取締役、三枝 透 様よりご寄稿いただきました！

100円の粗品



昔は粗品って喜ばれました。物が少なかったから。ちょっとしたボールペンでも嬉しかったような記憶があります。

でも、今はモノ余りの時代。100円ショップに行けば、大量にいろいろな商品が陳列されています。日常生活の多くを100円ショップで賄えることができると思えるくらい。

弊社でも、お客様粗品としてボールペンやクリアファイルを使っていました。しかしながら(当然というべきか)お客様の反応は「ありがとう」とは言うものの、「まあくれるなら、もらってあげるよ」という表情です。けっして喜んではいません。

そこで、100円の粗品で喜んでくれるモノはないかと、いろいろ探してみました。プレミア感のある激安商品……。そんなのないよなあと思いつつも……。

そして、ついに見つけました。昔使っていた100円札です。昭和40年代～50年初頭まで使われていたものです。私は古銭集めが趣味なので実情をよく知っていますが、この100円札は発行枚数が非常に多くて、未使用品もまだまだ大量に存在します。未使用品でもコレクター間では150円程度の価値しかありません。

弊社では、一般個人客に対しての粗品にこれを利用しています。ほとんどのお客さんはとても珍しがって喜んでくれます。額に入れて家に飾ってくれる人もいます(笑)。

人によっては友達に見せる人もいます。そんな時、こんなことを言ってくれていると思います。「あ、これは栃木パーツに廃車を出したら粗品でもらったんだよ！あそこは親切でいいからお勧めだよ！」

ロコミって廃車の入庫があると、とても嬉しいです。広告費0円ですから。

欲しい方は、古銭商に行って買うか、もしくはヤフオクでも購入できますよ。

(株式会社栃木パーツ 三枝 透)

■ 4月第3週(16日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供/日刊市況通信社]



4月16日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	24,000 ~ 25,000	強含み
	南関東	24,000 ~ 25,000	強含み
名古屋		24,000 ~ 24,500	様子見
関西	大阪	23,500 ~ 25,000	様子見
	姫路	23,000 ~ 23,500	様子見

欧米市場は混沌とした展開 欧州上昇も米国・トルコの需要は力強さを欠く

4月に入り、欧州市場は値上がりの動きとなったが、これはドル対比での通貨安による価格の押し上げと見られる。米国では鉄鋼メーカーの稼働率が低迷、トルコも鋼材需要が停滞しており、無理にスクラップ買値を引き上げる様子はなく、混沌とした展開が続く。

欧州ではトルコ向け輸出価格が上昇していることや域内メーカーの需要回復に伴い、ドイツ、イタリア、オーストリア、イギリスで3月比15~20ドルの上昇を見せた。ただ、ドルに比べて欧州各国の通貨安が輸出優位に作用し、この輸出対比での価格が最終的に欧州マーケットの上昇に繋がったとされる。

一方、米国では3月以降、鉄鋼メーカーの稼働率が60%台へ低迷している。またドル高により輸出が不利となり、逆に輸入にとっては有利な状況となるため、「稼働低下は中国などからの製品流入によって引き起こされている。相場回復は期待しづらい」(商社)と指摘する声がある。世界最大輸入国のトルコも欧米産の調達を安定的に行っており、指標価格は260ドル台を付けている。ただ、国内のビレット価格が380~390ドルで取引されているため、スクラップ価格の押し下げを図ろうとする意向は強い。「これ以上の値上げは採算的に厳しい状況」(同)との声もあり、アジア同様に欧米も力強さを欠く展開といえそうだ。

【関東地区】 H2中心の値上がりに 高炉の引き合い弱く上級玉の伸び鈍い

関東地区では、電炉筋の値上げが散発しており、強含みの推移を続けている。ただ、電炉筋の一部では鋼ダライ粉を据え置いたままの筋があるほか、高炉筋の引き合いが弱く上級玉価格の伸びが鈍いなど、品種によって相場推移に差が出る状況となっている。H2炉前実勢価格は24,000~4,500円中心、高値25,000円見当。これに対しHSと新断は26,000円前後で、H2との価格差は2,000円を割り込んでいる。

【東海地区】 輸出価格の上げ一服感でなお様子見の市況展開

名古屋地区の電炉メーカーには一部で実勢値の安値修正が見られたが、他社に目立った動きは見られず、全体の相場に変化は見られない。引き続き様子見横ばいの市況展開で月後半へすべり出している。H2炉前実勢価格は24,000~4,500円中心。台湾や東南アジアからの引合いは伸び悩みに転じていることで、輸出価格は上げ一服感との見方が台頭。これ以上の上伸も難しいとの見方から、様子見ながらも多くは出荷姿勢を変えていない。

【関西地区】 様子見ムード 相場を動かす材料に乏しい展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見ムード。船積み終了と同時に電炉入荷の回復が伝えられ、需給面での懸念は残りつつも、輸出価格や高値筋の動向をうかがう格好で慎重様子見の展開が続いている。H2炉前実勢価格は23,500~4,500円、高値25,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は23,000~3,500円。輸出価格の上伸が一過性という見方を拭えないことで、相場を動かす材料に乏しい展開となっている。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、4月16日午後時点のもの)

行事予定

■ 5月の主な予定

5月14日(木)

- ・ 第1回 ブロック長会議

5月17日(日)

- ・ 安全作業指導員研修会

5月18日(月)

- ・ 産構審・中環審
第40回 合同会議

5月19日(火)

- ・ 第2回 広報部会

5月24日(日)

- ・ 沖縄ブロック会議



お知らせ

■ 会員数(2015年4月時点)

総数 598社 / 会員 573社、賛助会員 25社

■ 自動車リサイクル士合格実績(2015年4月時点)

資格の種類	平成 25年度	平成 26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	37名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	15名	59名
自動車リサイクル管理士	626名	194名

☞ CHECK!

ELV機構の「平成27年度定期社員総会」の開催日と開催場所が決定しました。

(正式なご案内は後日あらためて行います)

- ◆ 開催日 平成27年6月11日(木)
- ◆ 開催場所 TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター <http://tkp-nihonbashi.net/>

編集後記

季節の移り変わりは思う以上に早いもので、このニュースレターが皆さんに届く頃にはおそらく桜前線は北海道へと場所を移していることでしょう。桜前線が過ぎ去りますと、次は総会シーズンへと突入します。全国至る所で総会ラッシュとなるわけですが、ELV機構の総会の日程も6月11日と決まりました。事務局も準備に向けて多忙な日々を送っています。▲さて、今号はNPO法人「持続可能な社会をつくる元気ネット」の事務局長である鬼沢良子さんへのインタビュー記事を掲載しております。鬼沢事務局長は産構審でも委員を務め、また、「持続可能な社会をつくる元気ネット」ではリサイクルのみならず地域特性や資源を活かした地域づくりを全国に展開するなど精力的に活動をされておられます。地域格差が叫ばれる昨今、地域を活性化するための元気大賞などの施策は大変勉強になりました。示唆に富んだその内容から、インタビュー記事は前編と後編の2回に渡ってお届けすることにしました。▲業界団体とはまた違った目線から、果たして自動車リサイクル業界はどのように映っているのか、何が足りないのかなど何かしら感じて頂けることと思います。

(広報部会 部会長 永田 則男)